

令和 6 年 8 月 21 日

各 位

三神地域農業指導者連絡会作物部会
三神 農 業 振 興 セ ン タ ー

「稲・大豆作情報（第 8 号）」について（送付）

このことについて、下記のとおり送付しますので、業務の参考にして下さい。

1. 気象概況（アメダス観測地：佐賀）

【半旬ごとの気象データ】

月	半旬	平均気温		最高気温		最低気温		降水量		日照時間	
		本年 ℃	平年 ℃	本年 ℃	平年 ℃	本年 ℃	平年 ℃	本年 mm	平年 mm	本年 hr	平年 hr
8月	1	31.7	28.8	37.1	33.7	27.6	25.1	4	31	47.5	35.0
	2	31.2	28.7	36.9	33.6	26.3	25.1	0	33	55.9	34.2
	3	30.2	28.5	37.4	33.2	25.4	25.0	1	38	52.1	32.6
	4	30.7	28.1	36.0	32.8	26.6	24.6	24	43	42.3	31.7

【8月13日～20日の気象概況】（平年と比較して）

気 温：平均気温は 2.3℃高かった。

降 水 量：平年比 59%と少なかったが、地域によって降雨の状況が異なる。

日照時間：平年比 143%と長かった。

2. 管内の生育概況

- ・「夢しずく」で乳熟期頃となっている。
- ・中晩生品種では「さがびより」で穂孕み期頃、「ヒヨクモチ」で幼穂形成～穂孕み期となっている。
- ・コブノメイガの成虫が発生している圃場が散見される。
- ・紋枯病の発生圃場が散見される

3. 情報田生育調査結果（8月20日現在）

（調査結果）

品種名	夢しずく	さがびより	ヒヨクモチ
草丈（cm）	出穂期	90.1	78.2
平年値（平年比）	8/8（-3）	87.5(103)	79.5(98)
茎数（本/m ² ）	止葉葉位	458	666
平年値（平年比）	13.7	432(106)	576(116)
葉齢（L）	止葉葉色	14.4	15.1
平年値（平年差）	38.9	14.7(-0.3)	14.6(+0.5)
葉色（SPAD値）		37.4	37.0
平年値（平年差）		37.1(+0.3)	36.8(+0.2)

概況

生育
 草丈：「さがびより」はやや高く、「ヒヨクモチ」はやや低い。
 茎数：「さがびより」「ヒヨクモチ」とともに多い。
 葉齢から見た生育の早遅：
 「さがびより」はやや遅れており、「ヒヨクモチ」はやや進んでいる。
 葉色（SPAD値）：「さがびより」「ヒヨクモチ」とともに平年並み。

注1)「夢しずく、さがびより」の平年値は、過去7ヶ年のうち収量が最高値と最低値の年を除いた5ヶ年のデータを当年調査日に換算した平均値。「ヒヨクモチ」の平年値はH28～R5のうち欠損したR1,2を除く6ヶ年のデータを当年調査日に換算した平均値。

注2)ラウンドの都合で小数点以下が一致しない場合がある。

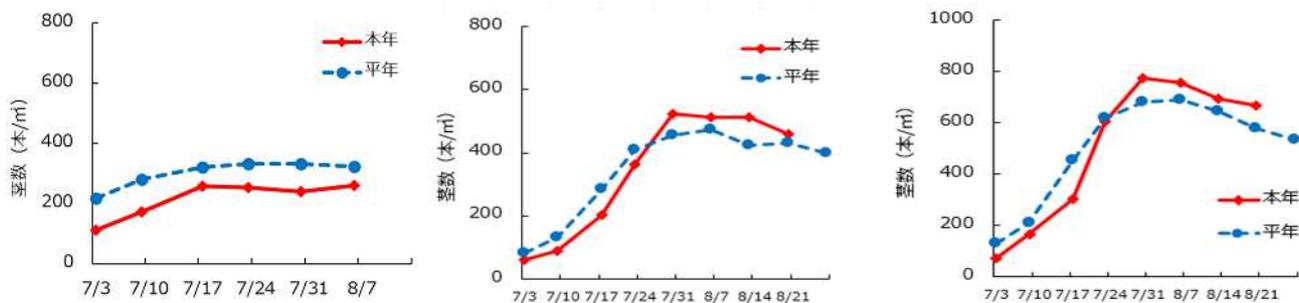


図 面積あたり茎数の推移（左：夢しずく、中：さがびより、右：ヒヨクモチ）

移植日	項	年次	草丈 cm	茎数 本/m ²	葉齢 L	葉色 SPAD	概況 (平年と比較して)
	目 品種						
6月18日	夢しずく	本年 平年 平年比(差)	出穂期:8月15日 出穂期:8月17日 -2			[気象] 8月13日~8月19日まで ◆平均気温…平年より2.2℃高い(30.5℃) ◆日照時間…長い(平年比140%) ◆降水量…極端に少ない(平年比1%) [生育] ◆草丈 「ヒノヒカリ」「ヒヨクモチ」はやや高く、 「さがびより」は高い。 ◆茎数 全ての品種でやや多い。 ◆葉齢 「夢しずく」の主稈葉数は平年並み (主稈葉数:本年13.5、平年13.4)、 葉齢は「ヒノヒカリ」「さがびより」 「ヒヨクモチ」でやや進んでいる。 葉耳間長は「ヒノヒカリ」で+13.6cm、 「さがびより」で-2.3cmとなっている。 ◆葉色 「ヒノヒカリ」は濃く、「さがびより」でやや 濃い。「ヒヨクモチ」は平年並み。	
	ヒノヒカリ	本年 平年 平年比(差)	95.7 91.5 105	472 455 104	14.6 14.2 +0.4	36.2 33.3 +2.9	
6月20日	さがびより	本年 平年 平年比(差)	93.9 85.5 110	460 452 102	14.6 14.4 +0.2	37.4 36.3 +1.1	
	ヒヨクモチ	本年 平年 平年比(差)	78.4 74.8 105	580 550 105	15.2 14.7 +0.5	36.0 35.9 +0.1	
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「夢しずく」の出穂期は8月15日で平年より2日早かった。 ○ 「ヒノヒカリ」は間もなく出穂期を迎える。葉耳間長から判断すると「さがびより」は10日後(8月30日頃)に出穂期を迎える。 ○ 「ヒヨクモチ」等でコブノメイガの成虫が多く見られ、被害葉も多数見られた。 						

4. 普通期水稻の今後の管理について (8月21日~)

(1) 水管理

- ・「夢しずく」は乳熟期、中晩生品種では「さがびより」で穂孕み期頃、「ヒヨクモチ」で幼穂形成~穂孕み期となっている。
- ・強い水分ストレスを与えないよう間断灌水を実施し、湿潤状態を保つ。

(2) 施肥

「ヒヨクモチ」穂肥Ⅱ

- ・分施の場合、各地区の栽培暦(表1)を参考に穂肥及び実肥を施用する。
- ・元肥に一発肥料を施用した圃場において、穂肥Ⅰ~Ⅱの時期に葉色がさめた(SPAD値40以下)場合は、BB602を10kg/10a施用する。

表 1. ヒヨクモチの穂肥等基準

(現物量kg/10a)

地区	肥料名	穂肥 I	穂肥 II	実肥
		8/14～16頃 (幼穂形成期)	8/22～26頃 (穂肥 I の10日後)	9/8～10頃 (穂揃期)
JAさが	LPBB804	35～45	—	—
東部	BB602	25	10	10
JAさが	LPBB804	30	—	—
神埼	BB602	25	15	—

(3) 病虫害防除

- ・「病虫害発生予察情報第4号(7/26発表)による主な病虫害の8月予報は以下のとおり。
- ・各圃場での発生状況に注意し、適切な防除を行う。

① トビイロウンカ・・・やや多い

- ・主要な飛来時期及び発生予測は下図のとおり。
- ・8/20調査では、ごくわずかであるが防除後の圃場でトビイロウンカの成虫が確認された。

防除実施後も各圃場での発生状況に注意し、発生がみられる場合には臨機防除を実施する。

※本年は多発生条件となっており、今後急増する場合もあるため、圃場毎の発生状況に注意し、適期防除に努める。防除適期は幼虫ふ化揃い期。

② コブノメイガ・・・やや多い

- ・主要な飛来時期及び発生予測は下図のとおりであるが、8/20調査では、成虫の発生圃場が散見されており、圃場毎に発生状況は異なる。
 - ・止葉を含む上位3葉に被害が出ると減収につながるため、圃場毎の発生状況を確認し、追加防除を行うなど適期防除に努める。
- 防除適期は幼虫ふ化揃い期(発蛾最盛期の7日後)。

③ 紋枯れ病・・・やや多い

- ・管内でも一部圃場で発生がみられる。
- ・病斑を確認した場合は、病斑が上位葉の葉鞘に進展(垂直進展)する時期に防除を検討する。(液剤・粉剤の場合は、出穂の10～20日間を目安)

④ 斑点米カメムシ類・・・やや多い

- ・耕種的な防除として、畦畔除草を出穂10日前までに行う。
「夢しずく」～「さがびより」では行わない。
「ヒヨクモチ」は8/25頃までに行う。
- ・乳熟期(穂揃い期の約10日後)を中心に農薬防除を行い、多発生の場合はその7～10日後に2回目防除を行う。
- ・防除はカメムシが穂に上ってくる夕方に行うと効果が高い。

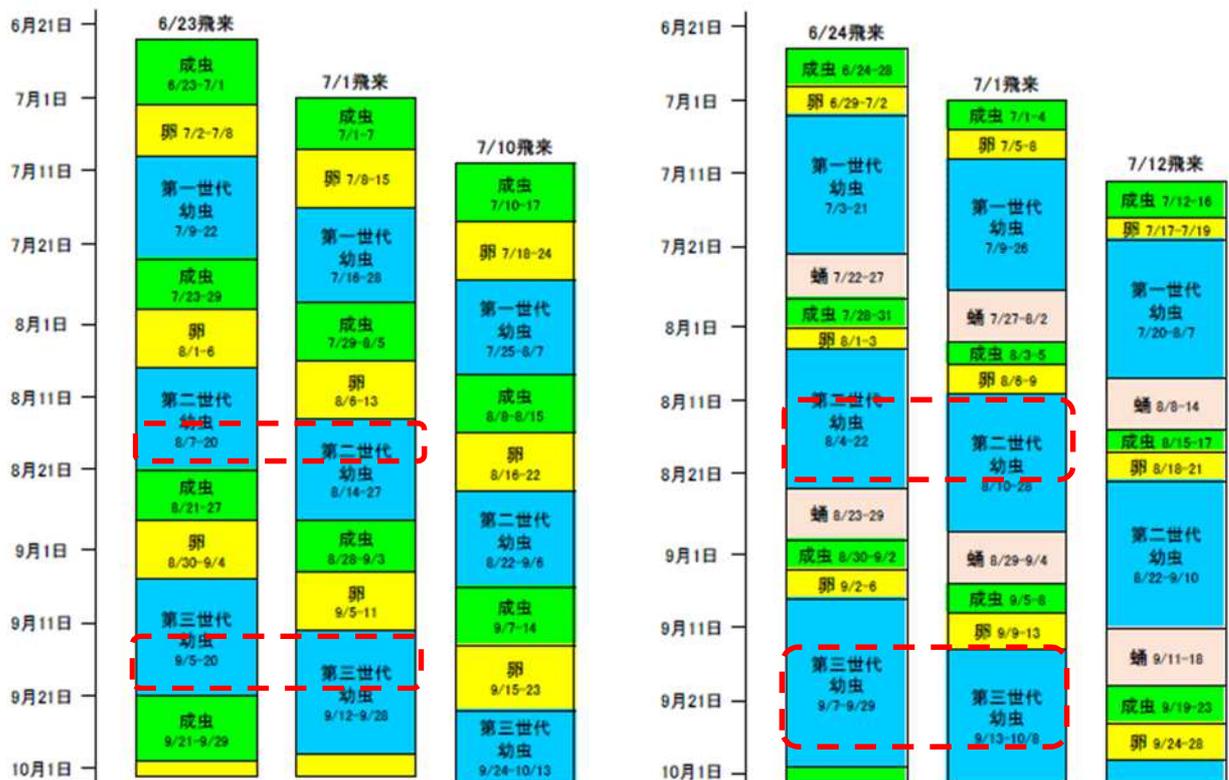


図 各世代の発生予測 (左: トビイロウンカ、右: コブノメイガ)

第2版 2024年7月19日公表

- ・今後の飛来状況や圃場条件（移植時期・品種・防除・周辺環境など）によって発生量や増殖率が異なるため、圃場での発生状況に注意する。
- ・今後、発生予測は随時更新されるため、防除の考え方等については、最新情報を農業技術防除センターのホームページで確認し、適期防除に努める。

[佐賀県 農業技術防除センター](#)

5. 大豆の今後の管理について

7月上旬に播種された圃場では、本葉12~13葉期となっている。

7月20日頃に播種された圃場では、本葉7~8葉期となっている。

7月25日以降に播種され、出芽の遅れた圃場では生育の停滞や萎れた個体がみられる。

高温乾燥条件が続き土壌の乾燥が進んでいるため、暗渠排水の栓を閉めるなどして土壌水分の確保を図る。

(1) 今後の天候

- ・九州北部地方の1ヶ月予報では、気温はかなり高く、降水量は平年並みか少なく、日照時間は多い予報である。

参考) 週間天気予報 (佐賀県: 8月21日9時発表)

今日 21日(水)	明日 22日(木)	明後日 23日(金)	24日(土)	25日(日)	26日(月)	27日(火)
曇時々晴 	晴時々曇 	曇一時雨 	曇 	曇 	曇 	曇一時雨
-20/20/20	20/30/20/20	50	40	40	40	50

(2) 中耕・培土

- ・7月下旬播種では、2回目の培土時期となっている。本葉が5枚開いているのを確認したら、初生葉(子葉の上の葉)が隠れる程度まで2回目の培土を行う。ただし、地上部の生育が不足しており、莖長が短く、最下着莢位置も低くなると予測されるため、培土は軽め(うねの高さが例年より低くなるよう)に行い、収穫ロスの低減と汚粒の発生防止に努める
- ・本年は高温、少雨の影響で圃場が干ばつ傾向となっている。気温が高い日中に中耕すると土壤水分の蒸散を助長し、乾燥害を生じる恐れがあるため、作業は夕方以降が望ましい。
- ・7月上旬播種ですでに開花期を迎えている圃場では、断根による根の活性低下の恐れがあるため、今後の培土は行わない。

(3) 干ばつ対策

- ・梅雨明け後、降雨がほとんど見られず圃場の土壤が乾燥しており、大豆が萎れ始めている圃場が散見される。このような圃場では、夕方以降にうね間灌水を検討する。
- ・今後も降雨が少ない見込みのため、コルゲート管の閉栓が土壤水分確保に有効である。



大豆生育期間中に必要な水量

乾燥し大豆が萎れ始めた圃場

(4) 雑草防除

- ・雑草の発生が多い圃場では、中耕培土後に雑草の発生に応じて生育期の莖葉処理剤を散布する。
- ・イネ科の雑草が多い場合はポルトフロアブル、ナブ乳剤、セレクト乳剤等。
- ・広葉の雑草が多い場合は大豆バサグラン、アタックショット乳剤等。大豆2葉期～開花前まで。
- ・アサガオ類、ホオズキ類の難防除雑草が多い地域では、圃場内侵入防止に努める。また、圃場内に発生している場合は、発生が少ないうちに雑草の開花や結実前までに莖葉処理剤のスポット散布や手取りによる徹底防除を行う。

(5) 病害虫防除

- ・「病害虫発生予察情報第5号(8/7発表)による主な病害虫の8月下旬予報は以下のとおり。
- ・各圃場での発生状況に注意し、適切な防除を行う。

①ハスモンヨトウ・・・やや多い

- ・気象庁の1ヶ月予報では「気温は高く、降水量は平年並みか少ない」とされており、多発生の条件となっている。
- ・管内の一部圃場では白変葉の発生が確認されている。
- ・防除適期は、若齢幼虫による白変葉が見られ始めた頃であり、防除が遅れ中齢幼虫以上(体調約2cm以上)になると防除効果が低下する。
- ・防除後約3日経過した後も高い密度で食害を続けている場合は再防除が必要。

②カメムシ類・・・やや多い

- ・気象庁の1ヶ月予報では「気温は高い」とされており、多発生の条件となっている。
- ・防除適期は、莢の伸長初期から子実肥大中期である。

③オオタバコガ・ウワバ類

- ・近年発生が多くみられる。本年はハスモンヨトウと同様に多発生の条件となっている。
- ・ハスモンヨトウによる白変葉と異なり、葉に穴が開くように食害されている場合は、オオタバコガ等の虫害と考えられる。
- ・オオタバコガやシロイチモジヨトウには、ノーモルト、トレボンの感受性が低下しているため、使用を避ける。



ハスモンヨトウ



オオタバコガ



シロイチモジヨトウ

令和6年産 水稲生育期間気象グラフ

(アメダス観測地点：佐賀, データ更新日：8月21日)

三神農業振興センター

